

1. 反則投球（2段モーション）について

① ルール改正 規則書の定義：38 項（イリガブル：反則投球）に記載されていた下記が削除された。

削除文→ 投手が5.07(a)の(1)(2)に規定された投球動作に違反して投球した場合にも反則投球になる

<5.07 投手の (a) 項> 正規の投球姿勢とは、

- ・投球姿勢には、(1) Windup ポジションと (2) Set ポジションとの二つの正規のものがあり、どちらでも随時用いることができる。
- ・打者への投球に関連する動作を起こしたならば、途中で止めたり、変更したりしないで、その投球を完了しなければならない
- ・”途中で止めたり、変更したり”とは、Windup ポジションおよび Set ポジションにおいて投手が投球動作中に、故意に一時停止したり、投球動作をスムーズに行なわずに、ことさらに段階をつけるモーションをしたり、手足をぶらぶらさせて投球することである。

② 反則投球に関する規則改正についての取扱い

<走者がいる場合の取扱い>

	全日本軟式野球連盟 ●神 選 連	B F J (全日本野球協会)	N P B (プロ野球)
自由な足を一時停止して投球、塁に送球	ボーク	ボーク	ボーク
自由な足を上げ下げして投球	ボーク	ボーク	ボークとはしない
自由な足を上げ下げして塁に送球	ボーク	ボーク	ボーク
グラブを叩いて投球	指導	ボーク	ボークとはしない
	2018:徹底指導 2019以降は、ボーク		

<走者がいない場合の取扱い>

- ・走者がいない場合には、ペナルティを課さないことになる。
- ・但し、自由な足を2度、3度と上下させた場合は自然の投球動作ではないので注意して止めさせる。

2. 申告故意四球について

(1) ルール改正 規則書の定義：7 項（ベースボール：四球）が改定された。

四球： 打者が攻撃中にボール4個を得るか、守備側チーム監督が打者を故意四球とする意思を審判員に示し、一塁へ進むことが許される裁定である。守備側チームの監督が審判員に故意四球の意思を伝えた場合（この場合はボールデッドである）打者には、ボール4個を得たときと同じように、一塁（が与えられる）へ進むことが許される。

(2) 申告故意四球の確認事項

- ① 従来通り、投手が敬遠するために、実際に投球して四球にすることも可能。
- ② 打撃中の投球カウント途中においても守備側の監督が申告することが可能。
- ③ 守備側の監督から申告されれば、球審はボールデッドとして打者に一塁を与える。
- ④ 申告による四球は、実際に投球されていない場合、その投手の投球数としてカウントはしない。
- ⑤ 攻撃側チームが代打を告げた場合、先に代打の手続きを行ってから敬遠のリクエストを受ける。
- ⑥ 投手が交代した最初の打者が申告による敬遠で一塁に進んだ場合、投手は1人の打者と対戦したとみなされ、交代することができるようになる。
- ⑦ リクエストにより敬遠を行なった場合、その時点でアピール権が消滅する。

以上

m r y m = y m z k